

都市再生整備計画 事後評価シート
富士宮駅周辺地区

平成26年3月

静岡県富士宮市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	静岡県		市町村名	富士宮市		地区名	富士宮駅周辺地区			面積	276ha			
交付期間	平成21年度～平成25年度		事後評価実施時期	平成25年度		交付対象事業費	2,221万円		国費率	0.4				
1) 事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業		<p style="text-align: center;">事業名</p> <p>【道路】一般市道大宮町21号線、一般市道宮町10号線、一般市道宮町5号線、(都)阿幸地青見線 【地域生活基盤施設】神田川広場 【高質空間形成施設】公衆トイレ 【高次都市施設】観光交流処</p> <p>【地域創造支援事業】富士宮市民文化会館改修事業</p>											
	当初計画から削除した事業		事業名		削除/追加の理由				削除/追加による目標、指標、数値目標への影響					
	新たに追加した事業		事業名		削除/追加の理由				削除/追加による目標、指標、数値目標への影響					
	当初計画から削除した事業		基幹事業		一般市道宮町5号線				事業内容等の精査により事業を縮小したため				影響なし	
	当初計画から削除した事業		提案事業		事業効果分析調査				市単独の事業として実施したため				影響なし	
	新たに追加した事業		基幹事業		【道路】一般市道宮町22号線、一般市道駅前歩道橋線 【地域生活基盤施設】(仮称)駅前駐車場、(仮称)駅前自転車駐車場 【高次都市施設】駅前交流センター				一般市道宮町22号線、一般市道駅前歩道橋線、(仮称)駅前駐車場、(仮称)駅前自転車駐車場、駅前交流センター建設事業を実施				中心市街地の交流人口増加、賑わい創出、地域コミュニティ醸成に寄与する事業として、指標4の追加	
新たに追加した事業		提案事業		【地域創造支援事業】(仮称)療育支援センター				(仮称)療育支援センター建設事業を実施				中心市街地の交流人口増加、地域コミュニティ醸成に寄与する事業として、指標4の追加		
交付期間の変更		当初変更		平成21年度～平成25年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響						-		
2) 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値		目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	事業効果(総合所見)	フォローアップ予定時期	
	指標1	渋滞長の緩和	m	1,945	H20	1,750	H25	-	1,550	○	あり	事業は一部未了だが、主要な基盤整備が整ったことで、渋滞緩和に効果が発揮された。	H26年9月	
	指標2	大型貨物車両の抑制	台/12h	412	H20	362	H25	-	476	×	あり	阿幸地青見線事業が未完了であり、目標値を達成できなかった。すでに一部区間を除き歩道整備によって大型車が通行しやすくなっているが、実測時には効果が見られなかった。	H26年9月	
	指標3	バリアフリー事業の促進(歩道整備率)	%	67.4	H20	72.4	H25	-	73.5	○	あり	事業により、歩道整備が進み、歩道整備率が向上した。また、神田川広場や浅間大社の観光交流処の整備も、バリアフリー重点整備地区内の歩行者動線整備に間接的な効果を生み出していると考えられる。	H26年9月	
	指標4	地域コミュニティの推進(中央公民館等の施設利用回数)	回/年	1,418	H20	1,624	H25	-	2,059	○	あり	対象事業はH26年4月に供用する見込みだが、中央公民館及び大宮小学校地域開放室のH25年9月までの利用実績から推計すると、事業の完了により、施設利用回数の目標値の達成を見込めると考えられる。	H26年9月	
3) その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値		目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	事業効果(総合所見)	フォローアップ予定時期	
	その他の数値指標1	歩行者の安全性、歩きやすさについての満足度(3つの設問に対して、1つでも「満足」または「ほぼ満足」と回答した人の割合)	%	-	-	-	-	-	53	/	/	事業は一部未了だが、主要な基盤整備が整ったことで、中心市街地に安全安心で回遊性のある歩行者空間を確保することにつながる効果が発揮された。	-	
	その他の数値指標2	浅間大社の観光交流処の案内件数(平日のみ)	件/年	11,651	H22	-	-	-	30,254	/	/	観光交流処がH21年度に整備後、主要な基盤整備が整ったことで、観光案内件数(平日)が増加し、中心市街地のにぎわい創出につながる利用者の増加に寄与した。	-	
	その他の数値指標3	浅間大社の駐車場のバス利用台数	台/年	865	H22	-	-	-	2,248	/	/	観光交流処及び公衆トイレがH21年度に整備後、主要な基盤整備が整ったことで、駐車場のバス利用台数が増加し、中心市街地のにぎわい創出につながる利用者の増加に寄与した。	-	
4) 定性的な効果発現状況	中心市街地まちづくり計画の策定に際し、H24年度にワークショップを実施した。その後、一部の商店街でまちづくりに関する勉強会を自主的に実施しており、浅間大社での外国人への対応方法などを勉強している。													
5) 実施過程の評価	実施内容		実施状況				今後の対応方針等							
	モニタリング	なし	都市再生整備計画に記載し、実施できた				都市再生整備計画に記載し、実施できた							
	住民参加プロセス	・中心市街地まちづくり計画のワークショップ ・まちづくりに関する勉強会 ・平成12年から毎月16日に駅前商店街で開催されている「十六市」が継続発展	都市再生整備計画に記載し、実施できた				都市再生整備計画に記載し、実施できた							
持続的なまちづくり体制の構築	・富士宮駅前交流センター運営協議会の設立	都市再生整備計画に記載し、実施できた				都市再生整備計画に記載し、実施できた								

様式2-2 地区の概要

富士宮駅周辺地区(静岡県富士宮市) 都市再生整備計画の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値	
大目標：中心市街地に安全安心で回遊性のある歩行者空間を確保する 目標1・潤いのある歩行者空間の整備により、まちなか歩きの回遊性を向上させる 目標2・JR身延線鉄道高架事業に合わせた面的な道路の新設整備を行う事により、鉄道により分断されていた南北地域コミュニティの再生と醸成に資するとともに回遊性のある歩行者空間を創出し、南北自動車交通の渋滞緩和を図る。 目標3・阿幸地青見線(内環状道路)の整備により、中心市街地を通過する大型貨物車両を抑制・分散して、歩行者の安全性向上を図る。	【指標1】渋滞長の緩和	単位:m	1,945 H20	1,750 H25	1,550 H25
	【指標2】大型貨物車両の抑制	単位:台/12h	412 H20	362 H25	476 H25
	【指標3】バリアフリー事業の促進(歩道整備率)	単位:%	67.4% H20	72.4% H25	73.5% H25
	【指標4】地域コミュニティの推進(中央公民館等の施設利用回数)	単位:回/年	1,418 H20	1,624 H25	2,059 H25
	【その他の数値指標1】歩行者の安全性、歩きやすさについての満足度	単位:%	-	-	53 H25
	【その他の数値指標2】浅間大社の観光交流処の案内件数(平日のみ)	単位:件/年	11,651 H22	-	30,254 H24
	【その他の数値指標3】浅間大社の駐車場のバス利用台数	単位:台/年	865 H22	-	2,248 H24

■基幹事業【道路】
一般市道大宮町21号線



■基幹事業【地域生活基盤施設】
神田川広場



■基幹事業【高質空間形成施設】
公衆トイレ



■基幹事業【高次都市施設】
観光交流処



■基幹事業【高次都市施設】
富士宮駅前交流センター



■提案事業【地域創造支援事業】
富士宮市民文化会館改修事業



まちの課題の変化

- ・「市民と観光客の安全な歩行者空間の確保と回遊性創出」、「南北交通とコミュニティの更なる円滑化」の2つの課題は改善した。
- ・「中心市街地の大型車の通過を抑制し、歩行者の安全性を向上」という課題については、阿幸地青見線は一部が未完了だが、市民満足度アンケート調査では、5年前と比べ歩行者の安全性・歩きやすさが向上したとの満足度が確認された。
- ・富士宮駅と浅間大社方面との間の連続した歩行者空間整備が形成され、安全安心な歩行者空間の整備が進み、まちなか歩きの回遊性は向上したが、さらに潤いのある歩行者空間の創出を図る必要がある。
- ・市民満足度アンケート調査で多くあげられていた以下のような施策も含め、満足度の向上を図る潤いのある歩行者空間を創出する必要がある。
 - ・立ち寄りたくなる魅力的な拠点整備
 - ・湧水の活用
 - ・世界遺産の構成資産である「富士山」への玄関口であり、「富士山本宮浅間大社」を地区の中心とした門前町の魅力を十分に発揮し国内外の来訪者に対応できるまちづくりが必要である。
 - ・浅間大社への来訪者が中心市街地の商店街を回遊するような施策を図る必要がある。
 - ・(仮称)富士山世界遺産センター開設を契機に、富士山の文化・歴史を国際的視野で情報発信するとともに、世界を見据えたまちづくりが必要がある。

今後のまちづくりの方策(改善策を含む)

- ・中心市街地の回遊性向上に向けて、これまでに整備された道路、公園等と合わせて歩道、歩行者専用道路を新たに整備し、富士宮駅周辺地区内のネットワークの強化を図る。
- ・市民満足度の向上につながり、世界遺産の魅力や湧水を活かした立ち寄りたくなる拠点、四季を通じて花を見られる歩行者空間等の整備を図る。具体的には、公園整備、歩道の景観整備、河川沿いの遊歩道整備、来訪者が歩きたくなるソフト施策等により、回遊性向上を図り、歩いて楽しいまちを創出する。